

令和七年度
入学試験問題
解答用紙

国語

現代の国語・言語文化・論理国語・
文学国語・古典探究

第一問

| | |
|---|------|
| a | 酸 |
| b | 緻密 |
| c | 完璧 |
| d | 凝 |
| e | 妬（嫉） |

問二

物語にはつきりとした結末が用意されていて、小説家はそこに向かって緻密に文章を構築していくという考え方。

問三

自分の人生は練習することも理解することもできないという指摘が、人生には明確な意義や目的を見出し、それに従って生きるべきだと考えていた若い頃の筆者の価値観を揺さぶった点。

問四

自分の物語が問い返されることで、自分の記憶の中に語り残したものがあつたことに気付かされ、再度物語を語り直す必要が生じるから。

問五

自分が感じたとおりに相手にもその一瞬の光景に深く共感してもらい、そしてそれを永遠の記憶としてとどめてもらうこと。

問六

人間は自分の身の回りに起こる物事や過去の経験などを意味のある物語として捉え、単純化して解釈しようとするということ。

問七

友人たちの書いた日常の何気ない小説のシーンには、彼らの顔や声以上に彼らの内面や価値観など、その人となりが生々しい形で現れていたから。

問八

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 度 | 分 | 情 | わ | 届 | 自 |
| か | 自 | を | か | け | 分 |
| ら | 身 | 日 | ら | た | の |
| 理 | も | 常 | な | い | 記 |
| 解 | 予 | の | い | と | 憶 |
| し | 測 | 何 | こ | 願 | に |
| よ | し | も | と | い | 残 |
| う | な | な | を | を | る |
| と | か | い | 受 | け | 出 |
| と | つ | い | け | 入 | 来 |
| す | た | 物 | れ | な | 事 |
| る | 営 | 語 | が | だ | や |
| 営 | み | と | ら | 一 | 感 |
| み | だ | し | 、 | 度 | 情 |
| だ | と | て | そ | き | を |
| と | 捉 | 言 | う | り | 読 |
| え | え | 葉 | し | の | み |
| る | よ | に | た | 手 | の |
| よ | う | 紡 | 出 | 人 | 心 |
| う | に | ぐ | 来 | 生 | は |
| な | あ | こ | 事 | は | 結 |
| な | ら | と | や | 末 | 深 |
| つ | ゆ | で | 、 | ま | く |
| た | る | 、 | 感 | で | に |
| 。 | 角 | 自 | | | |

（以上百五十字）

第二問

問一

| | |
|-------------------|-------------------|
| ④ | ① |
| 推定の助動詞「めり」の終止形 | 存続の助動詞「り」の連体形 |
| ⑤ | ② |
| 完了の助動詞「たり」の連体形の一部 | 強意（完了）の助動詞「ぬ」の未然形 |
| | ③ |
| | 使役の助動詞「す」の連用形 |

問二

| | |
|---|----------------------|
| ア | あらかじめ探したりなどはするつもりはない |
| イ | ふさわしいようなもの |
| ウ | 何とかしてこちらの姫君を勝たせたいなあ |

問二

| | |
|-------------|--------------|
| オ | 工 |
| 並大抵でなく素晴らしい | 負けさせ申しあげなざるな |

問三

| | |
|---|---|
| 1 | 2 |
| a | b |

3

貝がなくどうしようもないとどうして嘆いているのだろうか、いや、嘆く必要はない。白波が干潟に打ち寄せるように、私はあなたの方に心を寄せて味方をしよう。

問四

姫君の味方をするという和歌が聞こえたのは、自分たちが観音に祈ったためだと思ったから。

問五

観音の声とはいえ、不意にどこからともなく聞こえてきたので、恐ろしく思ったから。

問六

仏

問七

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 、 | 姫 | 君 | の | た | め | の | 、 | 貝 | が | 多 | く | 入 | っ | た | 州 | 浜 | を | 見 | つ | け | た | 童 | た | ち | が |
| 、 | 仏 | の | 御 | 利 | 益 | だ | と | 並 | 外 | れ | て | 騒 | ぐ | こ | と | が | 面 | 白 | か | っ | た | か | ら | 。 | |

(以上五十字)

問八

d

第三問

問一

| | | | | |
|----|----|----|-------------------|---------------------|
| a | b | c | d | e |
| それ | もし | のみ | なほ ^(お) | いはんや ^(お) |

問二

今あなたの容貌や立ち居振る舞いをじっと見ると、愚か者ではない。どうしてあなたを理由にしてこの谷を「愚公の谷」と名づけたのか。

問三

オ

問四

牛が馬を生めるはずがないと難癖をつけてきた少年に、愚公が子馬をみすみす持ち去られたのは、訴訟が公正でないからであり、大臣である管仲の政治に問題があると考えたから。

問五

安(く)んぞ人の駒を取る者有らんや。

問六

| | | | | | |
|----|---------|----|----|----|---|
| 誰が | 愚公(一老公) | 誰に | 少年 | 何を | 駒 |
|----|---------|----|----|----|---|

問七

オ

問八

桓公・管仲のような優れた為政者でも、自分の智恵を不十分で愚かだとみなしたのだから、凡庸な者はなおさら常に謙虚で自らを省みなければならぬ、ということ。